

事 項	黒毛和種「雪国」、「第1花国」、「福安」号を基幹種雄牛として選定、作出		
ね ら い	<p>黒毛和種種雄牛「雪国」、「第1花国」及び「福安」号については、産肉能力間接検定の結果、肉質及び増体等に非常に優れた成績を示していたが、フィールドからの枝肉記録を基に解析している産肉形質の育種価（遺伝的能力）評価結果においても、優れた遺伝的能力を有することが明らかとなり、3頭を本県の基幹種雄牛として選定・作出したので、これらの供用について普及に移す。</p>		
指 導 奨 励 内 容	<p>産肉形質の育種評価結果（平成11年10月評価、評価種雄牛598頭）</p> <p>1 「雪国」号</p> <p>(1) 脂肪交雑は、評価種雄牛中の7位であり非常に優れている。</p> <p>(2) 枝肉重量は、同379位とやや劣るがロース芯面積及びバラの厚さは同6位及び8位であり、非常に優れている。</p> <p>2 「第1花国」号</p> <p>(1) 脂肪交雑は、評価種雄牛中の4位であり非常に優れている。</p> <p>(2) 枝肉重量は同2位、バラの厚さ及びロース芯面積も同4位及び12位と非常に優れている。</p> <p>3 「福安」号</p> <p>(1) 脂肪交雑は、評価種雄牛中の1位であり非常に優れている。</p> <p>(2) 枝肉重量は同206位と平均的であるが、ロース芯面積は同9位と非常に優れている。</p>		
期待される効果	<p>1 「雪国」号 ロース芯面積、脂肪交雑、バラの厚さの改善が期待される。</p> <p>2 「第1花国」号 枝肉重量、脂肪交雑、バラの厚さ、ロース芯面積の改善が期待される。</p> <p>3 「福安」号 脂肪交雑及びロース芯面積の改善が期待される。</p> <p>4 これらの種雄牛を交配することにより、本県黒毛和種の肉質及びその他の産肉形質の向上が期待される。</p>		
普及上の注意事項	<p>1 3頭の種雄牛は系統的に、また肉質形質毎にそれぞれ特徴があるので、雌牛の育種価が判明している場合は、雌牛の優れた形質を損なうことなく、劣っている形質を補うように種雄牛を交配する。</p> <p>2 産肉形質の育種価評価結果は、年2回更新されるので最新の評価結果を参考とする。</p>		
担 当	青森県畜産試験場森田支場 種畜科	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成8～10年度 青森県畜産試験場試験研究成績書		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 種雄牛の産肉形質の育種価評価結果一覧表（評価種雄牛598頭中の「脂肪交雑」上位10頭）

名号	血統			脂肪交雑			枝肉重量		
	父	母	母の父	順位	育種価	正確度	順位	育種価	正確度
福 安	安福165の9	おちあい	紋次郎	1	1.882	0.796	206	6.492	0.783
安福165	安 福	しげふじ1	茂富士	2	1.651	0.962	95	17.385	0.958
丸 優	菊安土井	すずよし	茂金波	3	1.482	0.965	463	-16.269	0.961
第1花国	北国7の8	あおはな	花 桜	4	1.399	0.797	2	58.293	0.784
安次郎	安福165の9	おちあい	紋次郎	5	1.359	0.751	143	11.853	0.738
北国7の8	第7糸桜	きたぐに7	晴 美	6	1.348	0.983	21	37.826	0.981
雪 国	菊安土井	てるみ	安谷土井	7	1.340	0.863	379	-5.600	0.851
武 安	安福165の9	おちあい	紋次郎	8	1.337	0.770	250	3.633	0.757
菊安土井	菊則土井	むらよし	安千代土井	9	1.226	0.845	540	-30.402	0.838
菊 福	菊安土井	やすふく	安谷土井	10	1.148	0.793	503	-22.920	0.778

名号	ローズ芯			バラの厚さ			皮下脂肪厚			後代
	順位	育種価	正確度	順位	育種価	正確度	順位	育種価	正確度	
福 安	9	7.394	0.761	140	0.167	0.726	18	-0.630	0.734	8
安福165	2	9.486	0.952	48	0.323	0.937	46	-0.508	0.941	96
丸 優	174	2.088	0.956	9	0.600	0.943	45	-0.510	0.947	129
第1花国	12	7.035	0.764	4	0.761	0.730	117	-0.329	0.738	8
安次郎	15	6.705	0.718	51	0.318	0.686	69	-0.449	0.693	5
北国7の8	36	4.943	0.978	1	0.799	0.972	99	-0.380	0.974	370
雪 国	6	8.437	0.830	8	0.605	0.792	31	-0.551	0.801	18
武 安	13	7.024	0.736	197	0.102	0.702	34	-0.535	0.710	6
菊安土井	81	3.524	0.827	30	0.399	0.808	32	-0.538	0.812	3
菊 福	319	0.402	0.756	231	0.071	0.712	147	-0.258	0.723	11

- 注1) 本表の産肉形質の育種価評価は、全国和牛登録協会管理の育種価評価システムにより県内で肥育された肉牛5,449頭の枝肉記録を基にその血縁関係も活用し、また極力環境要因の影響を補正し遺伝的能力、すなわち育種価を評価したものである。
- 2) 「順位」は評価種雄牛598頭中の順位である。
- 3) 「育種価」は基礎集団（昭和50年頃に生まれた牛）の平均（全平均）を0とし、これに対して優れているか劣っているかという偏差値で示されている。
 （全平均：脂肪交雑1.3512、枝肉重量396.3533、ローズ芯面積48.3760、バラ厚7.1721、皮下脂肪厚2.4965）
 脂肪交雑、枝肉重量、ローズ芯面積、バラ厚は値が大きいほど平均より優る。皮下脂肪厚は値が小さいほど平均より優る。
- 4) 「正確度」は、評価された育種価と真の育種価との相関として示され、1に近づくほど正確となる。
- 5) 「後代」は、枝肉記録が入力された直接の後代牛頭数であり、10頭以上あれば0.8程度の実用的信頼度が得られる。